



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	直示と参照に基づく「だけ」と「しか〜ない」の意味解釈
Author(s)	山下, 好孝
Citation	北海道大学国際教育研究センター紀要, 20, 93-102
Issue Date	2016-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65698
Type	departmental bulletin paper
File Information	ISCHU20_yamashita.pdf



直示と参照に基づく「だけ」と「しか～ない」の意味解釈

Semantic Analysis of Japanese expressions DAKE and

SHIKA～NAI from deictic and contextual point of view

山 下 好 孝

直示と参照に基づく「だけ」と「しか～ない」の意味解釈 Semantic Analysis of Japanese expressions DAKE and SHIKA～NAI from deictic and contextual point of view

山下 好孝

《Abstract》

In an earlier paper (Yamashita [2016]) I proposed the need for a deictic and contextual approach in Japanese syntax. In this paper I analyze two similar Japanese expressions: DAKE and SHIKA～NAI.

Contextual use means that an expression needs to be interpreted with respect to a reference point in order to be understood appropriately. Use of DAKE presupposes that the noun which it follows is part of a whole, which must be understood as its reference point. In other words Dake is a contextual expression. By contrast SHIKA～NAI has a connotation that the noun or quantifier which it follows is a small amount or number. This is to say, it is a deictic expression because its use is based on the speaker's viewpoint. If the speaker thinks that the amount or number involved is small, SHIKA～NAI can be used. Moreover both these expressions, contextual and deictic, can co-occur in the same sentence:

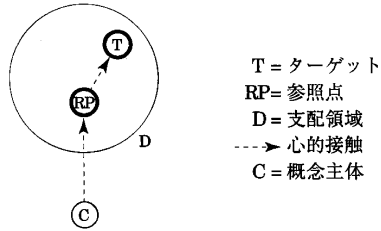
Henry DAKE SHIKA tesuto-wo ukeNAKATTA.

Finally I claim that these two viewpoints are necessary in various areas of Japanese syntax and suggest that the approach may be effective in analyzing WA- and non WA-sentences, or NODA- and non NODA-sentences.

1. 「直示表現」と「参照表現」

言語の表現には、自分を中心とした自分の視線で表現する「直示表現 (deictic expression)」と、なんらかの参照点 (reference point) を介して表現する「参照表現 (contextual expression)」がある。「参照表現」は概ね次のように図示することが出来る。

図1 参照点と参照表現



辻編 (2013 : 132)

山下 (2016) で示したように、日本語の「右、左」という表現はこれら2つの用法を有する。

図2 牛乳とコーヒー



この図においては話者の立ち位置、視点から「右、左」が決定され、直示表現が採用される。

(1) 牛乳は左、コーヒーは右にある。

ところが、次の図のような状況では2通りの表現が観察される。

図3 牛乳と男の人



(2) 牛乳は男の人の右にある。

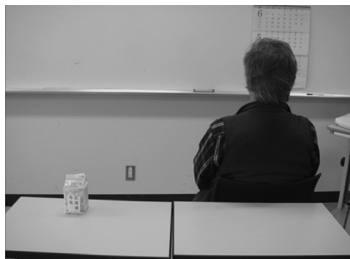
(3) 牛乳は男の人の左にある。

(2) の表現は男の人を基準点 (参照点) として、その右に牛乳があることを示す参照表現の文である。一方 (3) の文は話者から「向かって」、つ

まり直示表現として、左手に牛乳があることを示す。筆者の調査では現代日本語ではこれら2通りの表現が共存している¹⁾。図2との違いは、「男の人」が卓立しており、目立った存在になっていることである。つまり、ある対象の参照点になるためには卓立した存在でなければならないという条件が存在するのである。

また、次のような図の状況では参照表現と直示表現が重なりあう。

図4 牛乳と後ろ向きの男性



(4) 牛乳は男の人の左にある。

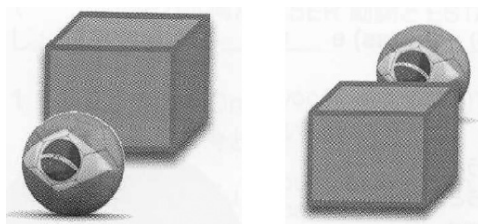
以上、山下(2016)の例を参照し、直示表現と参照表現のあらましを見た。以下の節では他の表現に関して同様のアプローチで考察を試みる。そしてこれらの表現の区別が言語の研究に有用であることを示す。

2. 「前、後ろ」「内、外」の参照点の置き方の差

前節では「右、左」について述べた。本節では場所を表す他の語句を用い、直示表現、参照表現の観点から考察する。

まず、「前、後ろ」という表現では、参照点が必ず必要とされる。参照点を起点として「前、後ろ」のどちらの表現を使うかが決定される。

図5 ボールと箱²⁾



(5) 箱の前にボールがある。 (6) 箱の後ろにボールがある。

「前、後ろ」の参照表現には言語による差が見られる。例えば、運転手が

運転席に座っている状況を考えてみよう。

(7) 運転手はハンドルの前に座った。

日本語ではハンドルを「参照点」とし、その前面に運転手がいることになる。

ところが英語では behind the wheel つまりハンドルの後ろという表現になる。

(8) The driver was seated behind the wheel.

英語の場合、車全体を「参照点」とし、まず「バンパー」があり、「ボンネット」があり、「フロントガラス」があり、「ハンドル (steering wheel)」があると考えるためである。そしてその後ろにドライバーがいるという表現になる。つまり参照するものの捉え方が日本語と英語では異なっているということである。

この点に関し、ブラジルポルトガル語ではどのように表現するか聞いてみた。ブラジルポルトガル語では日本語と英語の両方の発想で表現することが可能であることが分かった。

(9) atrás do volante 運転席に (ハンドルの後ろに)

(10) em frente ao volante 運転席に (ハンドルの前に)

以上の議論から、参照表現の参照点の置き方には、1) あるものを基準点とする日本語の「前」「後ろ」のようなタイプと、2) 英語の behind などにみられるような「全体」を参照点とし、そこから部分を示すタイプの二つがあることがわかった。

次に「内、外」という表現を考えてみよう。その一例として鉄道の駅の「島式プラットフォーム」にひかれた白線を取り上げる。

図6 いわゆる「島式プラットフォーム」京葉線新木場駅³⁾



上のようなプラットフォームに電車が入線してきたとする。日本の駅員はマイクで次のようにアナウンスするはずである。

- (11) 電車がまいります。危ないですから白線の内側に下がってお待ちください。

それを聞いた日本語母語話者は白線の「内側」に下がることになる。

ところが森田(1995:131-133)でも観察されているように、中国語母語話者がそれを聞くと、困ってしまう。中国語ではプラットホーム全体を基準点(参照点)として「内、外」を決定するからである。つまり狭い方が「内側」、広い方が「外側」となる。したがって、プラットホームの端と白線との間の狭い区画が「内側」となり、理解に苦しむのである。

日本語の場合「内、外」は直示的な表現であり、自分が線路に向かって立っているなら「内側」は自分よりであるということがすぐに判断できる。ところが中国語話者の場合、「内、外」はプラットホーム全体を参照点とする参照的な表現となる。このように両言語の「内、外」の捉え方が直示表現と参照表現というメカニズムで異なっているのである。ちなみに、韓国では、「内、外」の解釈が直示的なものと参照的なものがあり、人によって異なるそうである⁴⁾。

以上、場所を示す語句を直示表現、参照表現という観点で再検討した。また参照表現の参照点には、ある一点を参照点とする場合と、全体を参照点とする場合があることを明らかにした。次節では以上の考察を踏まえ、類義語の違いについてもこの二つの考え方が有効かどうかを見ることにする。

3. 「だけ」と「しか～ない」

前節で取り上げた表現は「右、左」「前、後ろ」「内、外」という対立する語彙のペアであった。本節では類義表現の「だけ」と「しか～ない」を取り上げる。

これらの表現は英語に翻訳するとどちらも only となり、日本語学習者がどちらを使って良いのか悩む項目となっている。

日本語教育の参考書では以下のような例文があげられている。

- (12) a. パワー電気に外国人の社員が1人だけいます。
b. 休みは日曜日だけです。

(スリーエーネットワーク [2012:75])

そして、次のような説明が付け加えられている。

- (13) だけ means 'only'. It is added after quantifiers or nouns to

indicate that there is no more or nothing else.

しかしながら (12 a) の例文はかなり不自然であり、「しか～ない」を使ったほうが自然であろう。

(14) 私の会社には外国人が1人しかいません。

「だけ」と「しか～ない」に関しては井戸 (2016 : 112) で次のような例文を挙げて説明を試みている。

[1] 日本の平均的な家族構成では

a. 1人の子どもに、1人の兄弟シカいない。

b. *1人の子どもに、1人の兄弟ダケがいる。

[2] a. 人間とチンパンジーの間には、僅かな遺伝子の違いシカない。

b. *人間とチンパンジーの間には、僅かな遺伝子の違いダケがある。

これらの文に共通することとして、1) 文のガ格には定的な表現が出てくることができない、いわゆる「定性効果」があるとする。さらに、2) ダケは前提集合を強決定詞的にふるまう。そのため前提集合を持たない [1 b]、[2 b] の文は非文となる。3) シカは前提集合を持つ必要がなく、弱決定詞的にふるまう、と指摘している。

たしかに「だけ」には2) の前提集合の条件は必要であろう。全体が前提とされることでそのうちの「○○だけ」という解釈が成り立つことになる。上で挙げた (12 a) の例文が不自然なのは「外国人」の全体が全体として設定されないからだという説明が可能になる。一方 (12 b) では一週間は7日あるという前提が含意されるため「日曜日だけ」という表現が成り立つ。

別の例で考えてみよう。ある人が友人に10万円借金をし、10ヶ月間、毎月1万円ずつ返却する約束をしたとする。ところが今月はお金のやりくりがつかず、手元に8000円しかない状況を仮定する。その場合、次のような発話が考えられる。

(15) ごめんなさい。今月は8000円だけ返します。

(16) a. ??ごめんなさい。今月は8000円しか返しません。

b. ごめんなさい。お金がなくて、今月は8000円しか

返せません。

言い換えると、(15)の「だけ」を用いた文は「借金の今月返済分の1万円」を参照点とし、そのうちの「8000円だけ」返すことを意味する、一種の参照表現であると言えるのではなかろうか。それに対し(16)の「しか～ない」を使った文は不自然となる。もちろん、(16b)にあるように、(残念ながら)「返せません」という可能否定形が用いられると適格性は増す。日本語の可能否定形は一種の感情表現として機能するため、主観的表現である直示表現と共起しやすいのであろう。

しかし井戸(2016)が挙げている「定性効果」の有無に関しては疑問がある。以下の文のガ格名詞句に「定性効果」が認められるだろうか。

- (17) クラスのメンバーのうち、ヘンリーだけが
テストを受けに来た。

「だけ」は固有名詞にもつくことが出来る。それは「しか～ない」とも共通する。

- (18) クラスのメンバーのうち、ヘンリーしか
テストを受けに来なかった。

井戸(2016)が論じた「前提集合」の仮定は「だけ」の議論には妥当である。しかし、「定性」に関しては数量詞に議論を限定した場合にしか当てはまらないのではないか。数量詞をとまなう「だけ」「しか～ない」の議論は、それらの用法の一部であり、全体に当てはまるものではない。

さらに、「だけ」に関しては以下のような動詞や形容詞につく用法もある。

- (19) a. 荷物は車に積めるだけ積んで持って行ってください。
b. 私は働くだけ働いて、その貯めたお金で余生を
ゆったりと過ごしたい。
c. 好きな酒を好きなだけ飲んで過ごしたいものだ。

これらの文における「だけ」の使用は前提とどのような関連があるのだろうか。

まずこれらの文は「範囲の限界」を表していると言える。そのため限度を含意する他動詞や可能形とは共起するが、瞬間的な動作を表す自動詞とは共起しない。

- (20) *立つだけ立つ

- (21) *起きるだけ起きる (cf. 寝るだけ寝たら仕事に行こう。)

「範囲の限界」を含意するということは、すなわち限界を「参照点」とす

る参照表現であるとみなせるのである。

他方、「しか～ない」はどうであろうか。前述のスリーエーネットワーク(2013)の文法説明書には次のような説明がある。

- (22) しかが is appended to nouns, quantifiers, etc., and is always used with a negative. A sentence that contains it negates everything except the word to which it is attached. When used with a noun to which a particle is attached, it is appended to the particle unless this is が or を, which it replaces. It suggests insufficiency or inadequacy.

ローマ字しか書けません。 I can only write Romaji.

ローマ字だけ書けます。 I can write Romaji

[but nothing else].

スリーエーネットワーク (2013: 19)

確かにこの説明にあるように「しか」は否定形「ない」を伴って使用される。しかし、その意味が「不十分」とか「ふさわしくない」ということを表すという説明は言い過ぎではなかろうか。否定的な意味だけでなく、文脈によっては肯定的な意味も持ちうるのではないだろうか。

- (23) 彼は試験で1問しか間違えなかった。

結局、「しか～ない」が表すのは「数量が少ない」ということだけではないだろうか。例えば私が財布の中身を見てみて少ししかお金がないのを発見し、次のように言うことはありうる。

- (24) あれ、520円しかないぞ。

しかしお金持ちの人なら次のようにも言う可能性がある。

- (25) あれ、5万円しかないぞ。

つまり話者の主観により金額が少ないとみなした場合「しか～ない」が使えるのであって、別に客観的な基準があるわけではないのである。そのように考えると「しか～ない」は話者の主観に基づく直示表現であると言える。

この直示表現が主観に基づくことについては、筆者は山下(2016)で直示である指示詞「これ」と「あれ」の選択に関連して論じた。例えば以下の図のようにモノレールから「太陽の塔」が見えたとする。

図7 太陽の塔



(26) ああ、これが「太陽の塔」か。

(27) ああ、あれが「太陽の塔」か。

同じ距離にある「太陽の塔」であっても、話者の主観によって「近い」とも「遠い」とも解釈され、「これ」も「あれ」も使用可能となる。つまり直示表現には話者の主観が関わっているのである

そして、「だけ」と「しか～ない」の両方を使った文も成り立つ。

(28) クラスのメンバー10人のうち、ヘンリー 1 人だけしか
テストを受けに来なかった。

「クラスのメンバー全体」を参照点とした参照表現「だけ」と、主観的に数が少ないことを表す直示表現の「しか～ない」がどちらも共起しているのである。もちろん主観によって少ないと感じられるなら、次のような表現も可能である。

(29) クラスのメンバー10人のうち、8 人しかテストを
受けに来なかった。

4. 結語

本研究ノートでは山下（2016）で提案した「参照表現」と「直示表現」の違いを、他の表現でも考察した。参照表現では「参照点」の置き方に一点に固定するタイプと、全体を参照点とするタイプがあることを見た。先行研究では、類義表現の「だけ」と「しか～ない」は対立的にとらえられることが多かったが、参照表現と直示表現から捉え直すと、両者が共起する文も説明出来ることが分かった。

直示と参照という考え方は、他の様々な領域の言語現象を説明するのに役立つかと思われる。たとえば「は」の現れる「主題文」と、その現れない「無題文」の違いは、主題を参照点とする参照表現と、参照点のな

い直示表現と解釈しなおすことも出来よう。典型的な無題文である「現象文」や「命令文」は話者の直示と大いに関連する。

さらに「のだ文」と非「のだ文」の対比に於いてもここで考察した二つの概念は有用ではないだろうか。「のだ文」には、発話状況や先行文脈となんらかの関連がないと生起しないという制限がある。つまり一種の「参照表現」であると見なすことも可能であろう。これらの言語現象にも将来は考察の範囲を広げていきたい。

注釈

- 1) 2016年4月に筆者の担当する北海道大学の講義「外国語としての関西弁」に出席した学生144名に行ったアンケートによる。
- 2) 兼安シルビア典子 (2014) “Descobrimos o Brasil” (同学社) p57より
- 3) ウィキペディア、「プラットホーム」より
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%83%A9%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>
- 4) 北海道大学の韓国語教員からの情報。

参考文献（アルファベット順）

- 井戸美里 (2016) 「いわゆる定性効果から見たとりたて詞ダケ、シカの前提集合」『日本語文法』16巻2号、pp111-127、日本語文法学会
- 森田良行 (1995) 『日本語の視点』創拓社
- スリーエーネットワーク (2012) 『みんなの日本語初級Ⅰ、第2版、翻訳・文法解説 英語版』
- スリーエーネットワーク (2013) 『みんなの日本語初級Ⅱ、第2版、翻訳・文法解説 英語版』
- 辻幸雄編 (2013) 『新編認知言語学キーワード事典』 研究社
- 山下好孝 (2016) 「直示と参照に基づく日本語指示詞の再検討」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』23巻、pp51-62
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/62975>

やました よしたか（国際教育研究センター教授）